▲檢事の實地檢分

記者に語る

六日午後製鐵所構内に於ける騒擾狀態を實地に觀察したる安達檢事は同夜十二時漸く觀察を了り八幡警察署に引揚げたるが記者の質問に對し巧に

▽要點を外して語る

「只今迄に檢擧したる犯人中果して刑事被告人ありやなやは目下一色、兒玉檢事に依り取調中なれば其結果を見るまでは言明し難く勞働運動は社會的要素なれば八幡

鎔鑛爐は救はれたが

平爐廿五個は全滅

辛うして鎔鑛爐に燃料を投入し得て今後半箇年間は凝結の憂が無なつた

依然熾んなる流言蜚語

七日午後白仁長官より長交の電報に接せる後中川次長の職工側に與へた通告は彼等の意に滿たざる事のみなるより流言蜚語に包まれつゝある八幡全市民は何事か勃發するにあらずやと杞憂しつゝあつたが其の筋の警戒嚴重の爲め幸に何等の事變をも生ずることなく八日朝に至つて去る五日の同盟罷業發生以來製鐵所當局は必死となつて鎔鑛爐の火を落さゞるやう努めた結果此の點は安全なることを得たが平爐二十七個の中二個は内部の熔鐵を流出せしめたが殘る二十五箇は火の絶ゆると共に鎔鐵は平爐の中に凝結したから遂に之を取り壞ち改造せざるべからざることゝ八日に至り決定した而して右平爐は熔鑛爐より出だせる鐵を更に精煉なる鋼鐵とすべき唯一の裝置であるが二十五箇の平爐内部の鎔鐵を流失せしめたから鋼鐵の性質を全く可能ならしめた、其後鎔鑛爐は現に引續き

特殊勤務をして

燃料を投入せしめつゝある同爐にして今後例令燃料の投入を絶つとも半箇年間は凝結せずと言へば特に之に暴行を演ぜざる限りは今後罷業を永續するとも致命的損害を被らないと（下關電話）

八日は全部休業

一日の損害額三十萬圓

憂慮さるゝは解決方法

兵器上の大問題

東京砲兵工廠長宮田中將談

朝鮮平壤の兵器製造所を視察の歸途八日朝下關に着したる東京砲兵工廠長宮田中將は下關驛頭で不安氣な面持にて遙に八幡方面の空を見遣り乍ら「八幡製鐵所同盟罷業は自分等の所管事務と密接重要な關係があるので事件突發以來

電報で

經過の通知を受けて居るが鎔鑛爐の火を落してゐないさうだから未だ不幸中の幸だが若し火を落したら軍器製造の上に大支障を來す事は勿論、ある今度の職工側の態度は同盟罷業といふよりも寧ろ暴行といふべき犯罪だらう東京方面の各工場に於ても現在の職工待遇は何れも出來る丈け優遇しつゝあるのだから職工自ら順る處がなければ各工場

閉鎖の外はなからう

職工自ら天に向つて唾するに等しき愚を演じつゝあるを知らなければならぬ今や米國の如きは職工及其他の勞働者の横暴に困却して寧ろ壓制的政策を執りつつあるではないか今回自分の最も深く憂ふる處は事件の解決方法の如何であつて其方法を誤らば陸海軍各工場は勿論

北九州

一圓の工業界に由々敷影響を及ぼすであらう」と心配氣に語つた向宮田中將と同道歸朝した大阪砲兵工廠提理横山彦少將は下關で宮田中將と別れ八幡製鐵所の罷業狀態を調査し小倉兵器支廠を視察し一兩日の後歸任する筈（下關電話）

勞友會の幹部

七名起訴さる

淺原西田正副長以下

東宮殿下

沼津へ御還啓

七日葉山御用邸へ參伺の東宮殿下には八日午後二時十五分逗子驛御發車五時沼津御用邸に還啓遊ばされた（沼津電話）